

ツルの里づくり

ツルたちが安心して
越冬できる里づくり

これまでの取り組み
(平成14年度～令和2年度)

中筋川で、ツルたちの越冬環境づくりとして湿地の整備と樋門の段差解消を実施しました。また、四万十つるの里づくりの会などと連携し、地域への普及啓発を行いました。



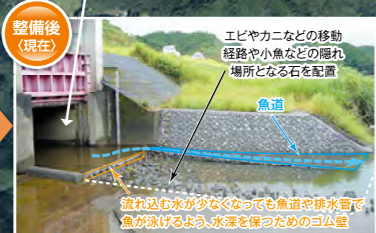
これからの取り組み
(令和3年度～)

これまでの取り組みによりツルの飛来数は増えたものの、越冬するツルはまだ少ない状況です。また、ねぐらや餌の不足が心配されているため、これらの解決に向けた整備を実施します。さらに、地域との連携の輪を広げ、普及啓発も継続します。

①樋門の段差解消

ツルの餌となる魚などが、中筋川から水田地帯に入っていけるよう樋門を改良しました。(1～5)

整備の実施例(九樹樋門)



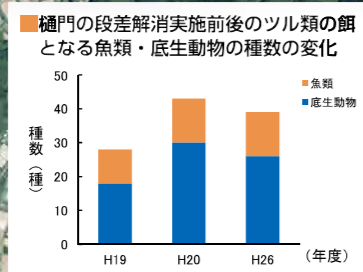
これまでの取り組みの効果

①ツルの飛来数や越冬が増えました

平成25年度には中山箇所湿地でマナヅルが越冬しました。また、平成29年度～令和元年度には初めて3年連続での越冬が確認されました。



②ツルの餌となる生き物の種類数が増えました



②湿地の整備

中筋川にツルの餌場やねぐらになる湿地を2カ所整備しました。

中山箇所



間箇所



①ツルがより利用しやすいねぐらの整備

これまでツルは四万十川の砂州を主なねぐらとして利用してきましたが、人の立ち入りなどでねぐらが使えなくなるとツルの数が激減していました。このため、中山箇所と間箇所の湿地をツルがより利用しやすいねぐらとして改良します。



②ツルの餌となる魚類等が生まれ育つ場所の創出

中筋川から多くの餌生物を水田地帯に供給できるよう、魚類等の繁殖場所と成育場所を整備します。

森沢箇所(繁殖場所)

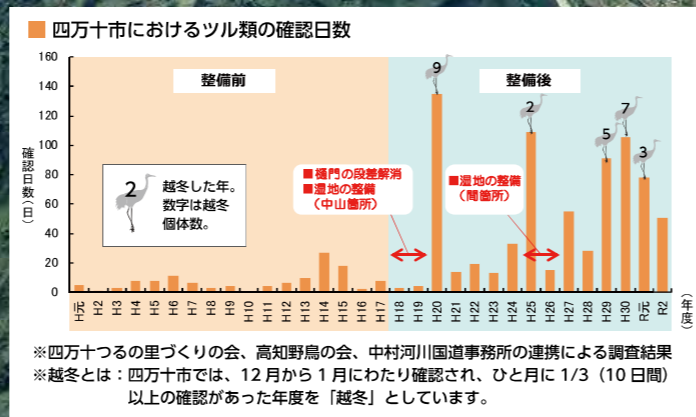
ほ場整備等により、ドジョウやタモロコなどが用水路や水田で産卵できなくなっているため、川の中に水田と同じような環境(たまり)を造ります。



中山箇所、森沢箇所、間箇所をつなぐ中筋川(成育場所)

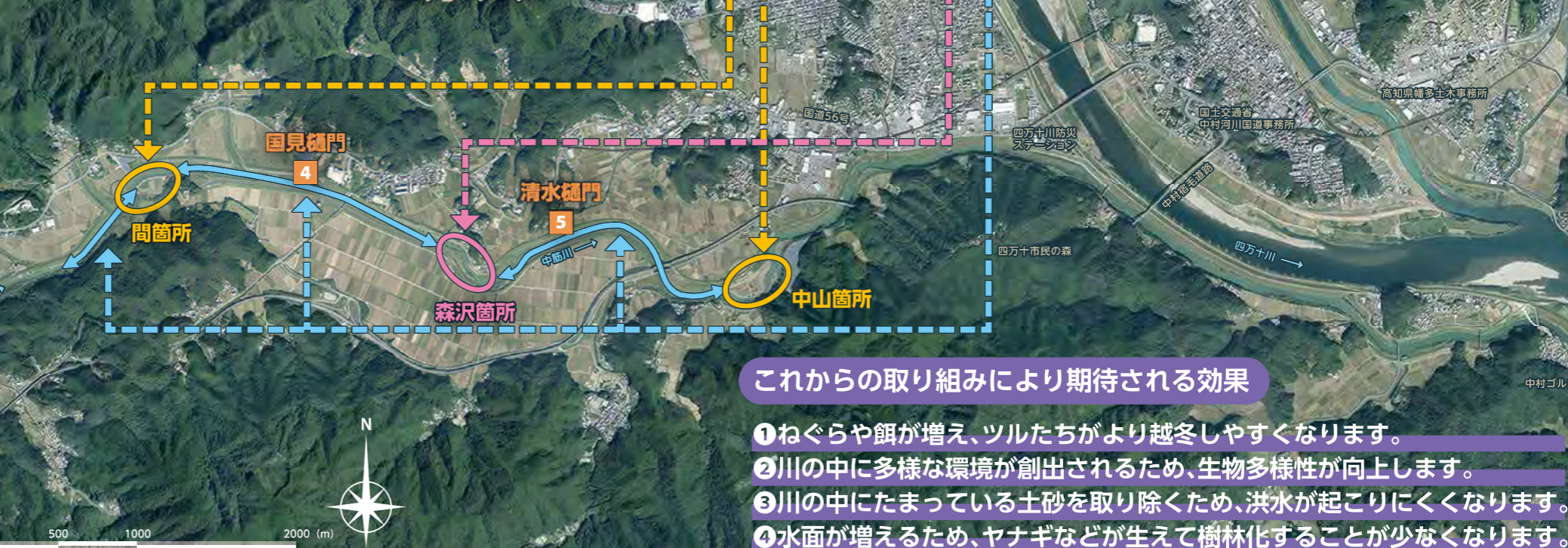
孵化した魚の子どもの成長に適した環境(ワンド・浅場)を造ります。

※川の本流とつながっているが、池のようになっている場所。



※四万十つるの里づくりの会、高知野鳥の会、中村河川国道事務所の連携による調査結果
※越冬とは、四万十市では、12月から1月にわたり確認され、ひと月に1/3(10日間)以上の確認があった年度を「越冬」としています。

四万十市



これからの取り組みにより期待される効果

- ①ねぐらや餌が増え、ツルたちがより越冬しやすくなります。
- ②川の中に多様な環境が創出されるため、生物多様性が向上します。
- ③川の中にたまっている土砂を取り除くため、洪水が起こりにくくなります。
- ④水面が増えるため、ヤナギなどが生えて樹林化することが少なくなります。